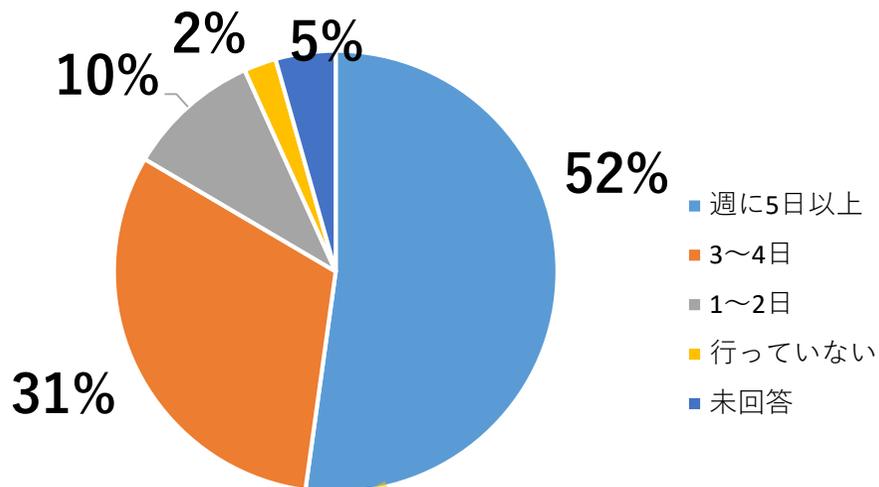


日時	場所	種目	参加人数
1月15日(日)	鷹栖町総合体育館	バレーボール	70名
1月28日(土)	名寄市スポーツセンター	バドミントン	75名
1月29日(日)	鷹栖町総合体育館	バドミントン	81名
2月12日(日)	鷹栖町B&G海洋センター	バルシューレ Nチャレンジ	バルシューレ:20名 Nチャレンジ:20名
2月12日(日)	比布町農村環境改善センター	ダンス	8名
2月16日(木) 2月22日(水)	比布町いちごアリーナ 比布中央学校体育館	ピピカツ運動教室	16日:8名 22日:14名
2月19日(日)	名寄市風連B&G海洋センター	バルシューレ Nチャレンジ	バルシューレ:29名 Nチャレンジ:40名
		ダンス	18名
2月23日(木)	比布町体育館	バレーボール	9名
全 8 回 6種目			392名

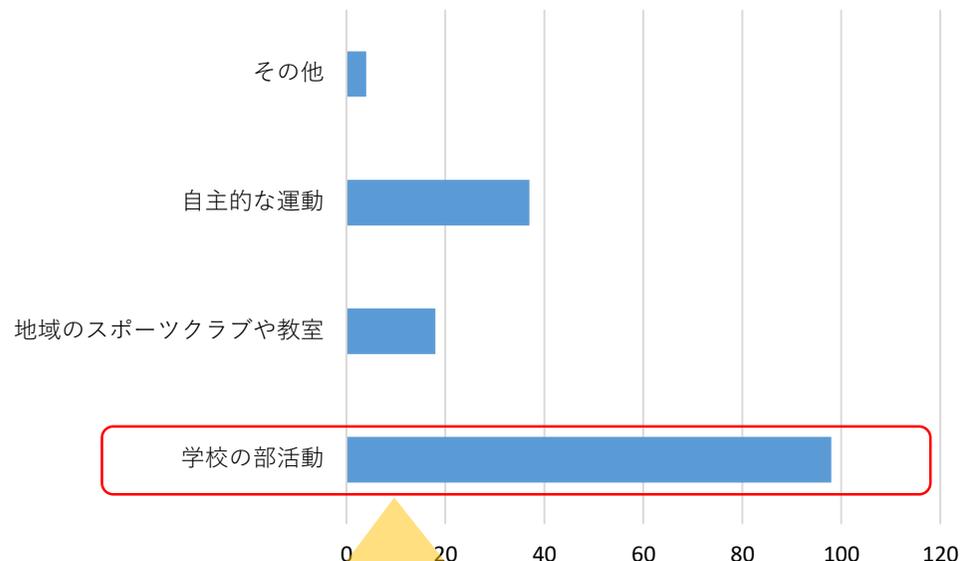
一週間にどれくらい運動・スポーツを行っていますか？ n=297

中学生1名／112名 1%
小学生6名／171名 4%



中・高生：83名／112名 **74%**
小学生：71名／171名 42%

運動・スポーツはどのように行っていますか？（複数回答・中高生のみ） n=157



中学生：92名／106名 87%
高校生：6名／6名 100%

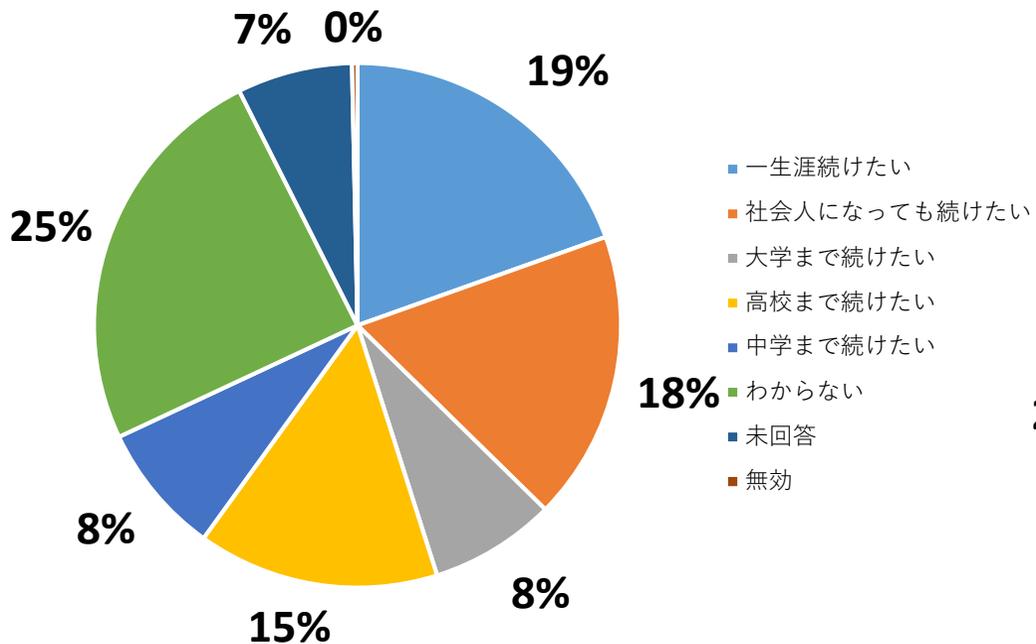
子どもたちが運動・スポーツに親しむ機会として、部活動の果たす役割は大きい。



部活動が果たしてきた役割や意義を継承・発展させ、子どもたちの望ましいスポーツ環境を整備していくことが我々の役割

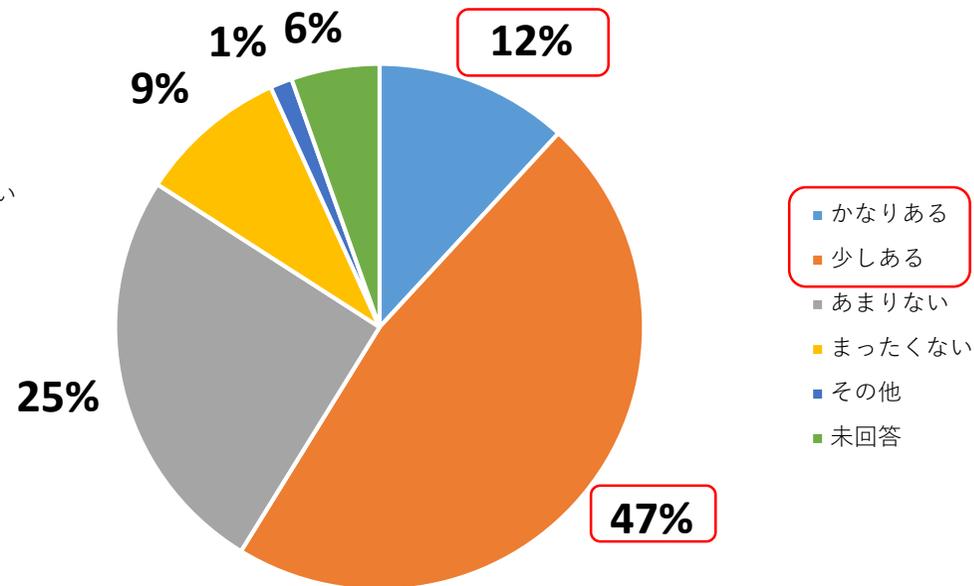
いま行っている種目は、
将来どのくらい続けていきたいか

N=297



運動・スポーツを通じて、地域の方々(主に他世代の方)と接する機会はあるか

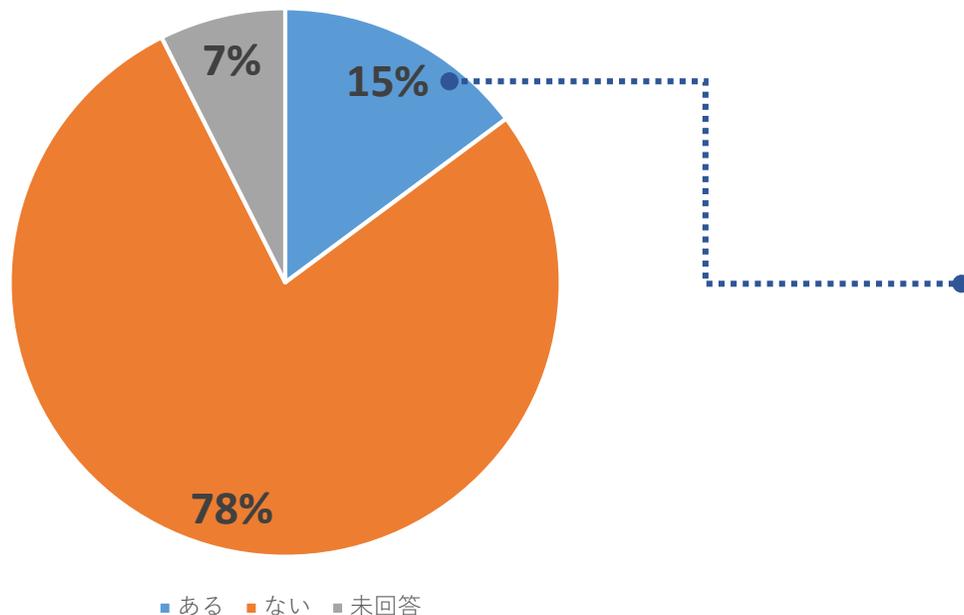
N=296



現在実施している種目に関する今後の見通しはそれぞれであり、マルチスポーツの意義を広めながら、生涯に渡ってスポーツに親しめる環境の整備が求められる。

約60%の子どもたちがスポーツを通じて、地域の方々と触れあう機会を持っている。スポーツの振興をコミュニティの活性化につなげ、まちづくりに活かして行く視点が求められる。

やりたいのに出来ない（諦めた）
種目はあるか N=297



種目	計
サッカー	9
バスケット	7
バドミントン	6
水泳(飛び込み含む)	5
スキー(アルペン含む)	5
ダンス	5
スケート	2
バレーボール	2
アイスホッケー	1
キックボクシング	1
弓道	1
ゴルフ	1
卓球	1
テニス	1
剣道	1
少林寺拳法	1
トランポリン	1
ハンドボール	1
ボルダリング	1
体操	1
e-スポーツ	1
野球	1

15%の子どもたちが、希望するスポーツが出来ない（諦めた）環境にある。
その理由は明らかではないが、「身近なスポーツ環境の問題」、「経済的な問題」、「時間的な問題」、「移動の問題」などが考えられ、子どもたちのニーズを把握するとともに、総合的なまちづくりの視点からスポーツ振興に取り組んで行くことが大切。

成 果

➤ 子どもたちのスポーツ体験機会の創出

全8回6種目

(バレーボール、バドミントン、バルシューレ、Nチャレンジ、ダンス、ピピカツ運動)

- 地元のプロチームやトップチームの協力による子どもたちとのタッチポイントの創出
- 子どもたちのスポーツに対する意欲の向上(身体を動かすことの楽しさの実感)
- 広域的な範囲からの参加、部活動バスの活用など、広域連携による地域クラブ活動の実施に係る検証
- 普段少人数で練習している子どもたちが、他学校、他地域、他チームの子どもたちと共に練習する機会の創出
- 関係者(子どもたちの体験を支える大人達)間のネットワーキング促進

課 題

- 十分な準備期間・周知期間や実証自治体間での連携機会が必要。
- 初心者と経験者の日程の区分が望ましい。
- 保護者や引率者が学ぶ機会や互いにコミュニケーションがとれるようなプログラムを設けることは検討に値する。
- パラスポーツやゆるスポーツなど、誰もが親しめる種目も取り入れることが大切。
- 運動習慣のない子どもたちの参加を促す仕掛け(周知の工夫)が望ましい。
- 民間との連携、活用を仕掛けとして組み込めれば良かった。